

気仙沼管内の宮城県公所が取り組んだ事業を定期的に紹介します。

## 特集 「オルシ」ってなに？

(気仙沼地方振興事務所地方振興部)

10月7日、「宮城オルシ」が遂にオープンしました！オープンしたコースは気仙沼唐桑コースと奥松島コースの2つです。

「オルシ」とは、韓国で人気のトレッキングコースのことで、韓国・済州(チェジュ)島の方言で「通りから家に通じる狭い路地」という意味です。「カンセ」と呼ばれる馬のモチーフや青と赤のリボン、矢印を目印に景観ポイントなどを廻りながら歩きます。「オルシ」は海岸線や山などの自然、民家の路地などを身近に感じ自分なりにゆっくり楽しみながら歩くところに魅力があります。



気仙沼唐桑コースは、唐桑半島の先端にある唐桑半島ビジターセンターから御崎をまわり、三陸復興国立公園の代表的な景勝地「巨釜・半造」までの約10kmです。変化に富んだリアスの海岸線と潮騒の聞こえる森の道、小さな神社への参道などを歩き、唐桑半島の雄大な景色を眺めながら海と共に生きてきた唐桑の人々の暮らしや文化に触れることができます。2月～4月はツバキ、6月はニッコウキスゲがコースのあちこちで見られ、海の青に花の色がよく映えます。

日本では、九州地方の「九州オルシ」と「宮城オルシ」の2エリアが認定されています。

認定にあたっては、認定機関である社団法人済州オルシにより、コースの中に自然を楽しむ要素が含まれているか、歩いてこそ楽しめる景色があるか、一定の距離毎に景色の変化があるかなど、厳しい審査が行われました。

地方振興事務所では10月のオープンに向けて、県ソウル事務所や県観光課、気仙沼市関係機関、唐桑町観光協会との調整を行い、準備を進めてきました。

具体的には、地元の方向けに、九州オルシの1つ、佐賀県唐津市の担当者から地域の取組等について学ぶ研修会を開催したほか、韓国からの旅行客を温かくお迎えするため、韓国の文化や挨拶などを学ぶ「韓国語教室」を開催しました。

オープン後、気仙沼唐桑コースには2か月で約600の方がオルシを楽しみに訪れています。スタート地点のビジターセンターではコースマップの配布やカンセ人形のキーホルダーなどオルレグッズの販売も行っていますので、ぜひ一度オルシの魅力を体験しにお越しください。



## 平成30年度第2回オープンキャンパスを開催しました。(気仙沼高等技術専門学校)

9月8日(土)、当校において今年度2回目のオープンキャンパスを開催しました。

このオープンキャンパスは、高校生や一般の方々を対象に、身近に技術が学べて就職に有利な資格が取得できる、公共の職業訓練校のPRを目的に開催しているものです。

当日は、高校生や一般の方々に来ていただき、訓練内容や費用、資格取得状況の他、就職先の状況などの説明を行いました。このほか、自動車整備科では、エンジンの組立て体験やエアバック作動の実験、また、エアサスペンションの作動の実験等を、オフィスビジネス科では、パソコンを使ってカレンダー作りを体験していただきました。

現在、平成31年度の入学生を募集中です。希望の方にはいつでも見学や体験を受け入れておりますので、皆様の来校をお待ちしております。



全体説明



エンジン組立て体験



カレンダー作り体験

## 「南三陸ねぎまつり」を開催しました。(気仙沼地方振興事務所農業振興部)

東日本大震災以降、復旧農地を中心に生産が年々拡大している「南三陸ねぎ」の知名度アップに向けて、11月11日、JAまつり(気仙沼地域農業祭)内で「南三陸ねぎまつり」を開催し、南三陸ねぎの販売とともに、ねぎ料理の試食やパネル紹介をとおして地域の消費者にPRしました。

当日は、天気にも恵まれ、多くの来場者で賑わいました。

試食として提供した料理は、南三陸ねぎを主体に“家庭で手軽に調理できる”ことをテーマに、地元シェフが開発中の「南三陸ねぎのドライカレー」などで、試食した方々はレシピを手にとり、「つくってみたい」と、好評でした。ねぎが苦手なお子さんが、「これなら食べられる!」との声に、早速、南三陸ねぎを購入するお母さんもいらっしゃいました。開発中のねぎ料理レシピは、年内に当所ホームページで紹介する予定です。



試食のねぎ料理が好評



南三陸ねぎの紹介



南三陸ねぎのドライカレー

## 鹿児島県との記念植樹 @ 西戸川 (気仙沼地方振興事務所農業農村整備部)

10月17日に南三陸町の東日本大震災西戸地区復興祈念公園で、鹿児島県復旧復興派遣職員記念植樹が行われました。

震災から本年まで、鹿児島県から気仙沼地方振興事務所及び気仙沼市へ農業土木派遣職員49名の応援をいただき、ほ場整備事業など復旧復興に携わる業務をご担当いただきました。創造的復興に取り組んでいる宮城県に対し、鹿児島県から「更なる復興を願って記念植樹を」とのご提案があり、今回の実施となりました。植樹は鹿児島の県木「クスノキ」、県花「キリシマツツジ」、同県で植えられている「ヤクシマシャクナゲ」の3本に代表者が土をかけ、鹿児島県・宮城県・気仙沼市・南三陸町の関係者や地元の方々などの参列者が木に一杯ずつ奉水し、心を込めて植えられました。復興を願い、宮城県と鹿児島県のつながりがより一層強いものになった植樹となりました。



鈴木所長と堀技監による植樹の様子



式典の様子

## “選ばれた林業経営” 松岩愛林公益会 (気仙沼地方振興事務所林業振興部)

平成30年度農林水産祭参加全国林業経営推奨行事(11月8日)において、一般社団法人松岩愛林公益会(気仙沼市松岩・内海太会長)が林野庁長官賞を受賞されました。受賞の功績は、旧松岩村有林約5百haの森林経営・管理に加え、地域子弟のための育英奨学金設置や震災見舞金進呈、及び復興住宅の用材提供等、長年にわたる地域への公益的事業によるものです。

東京での授賞式では、主催団体(大日本山林会)総裁である秋篠宮殿下が御臨席され、内海会長から殿下へ震災復興への謝辞や「森は海の恋人運動」を直接御奏上する機会にも恵まれ、表彰の喜びもひとしおで、今後とも従来どおり地域貢献に邁進するとの御所存でした。(一般社団法人松岩愛林公益会(現会員721人)は昭和28年の旧村合併の気仙沼市誕生時に設立され、以来65年の長期にわたり森林整備を主体とした模範的な森林経営に取り組んでこられました。)



表彰式の様子(内海会長、尾形監事)



林業機械による所有林の間伐作業

## 冬の味覚「ドンコ」ってどんな魚？（気仙沼地方振興事務所水産漁港部）

ドンコは、標準和名（正式な名称）をエゾイソアイナメと言い、太平洋側では北海道から三重県沿岸に棲む魚です。体長 30 cm 前後のものが多く、延縄やカゴ、刺網などで漁獲されます。ブリッとした白身と濃厚な味わいの肝が特徴で、秋から冬は肝に脂が乗り、最も美味しく食べられます。

旧暦の 10 月 20 日に商業や漁業、農業の神様である「えびす神」を祀り、商売繁盛や家内安全、大漁を祈願する「えびす講」という風習がありますが、気仙沼地方ではドンコを神棚にお供えし、味噌や醤油で仕立てたドンコ汁や味噌煮にして食べるなど縁起のよい魚として親しまれています。

「みやぎ水産の日」12月のオススメ食材は「タラ」ですが、分類的に近いドンコも冬の味覚として是非お楽しみください。



下あごのヒゲが特徴



ドンコ汁（南三陸ねぎと一緒に是非）

## 【コラム】受験の味方「オクトパス君」（気仙沼地方振興事務所地方振興部）

受験シーズンの到来で、受験生の皆さんは日々勉強を頑張っていることと思います。

そんな皆さんを応援する、ゆる～い味方といえば、南三陸のキャラクター「オクトパス君」。置くと（試験に）パスするという縁担ぎから、首都圏からもグッズの注文が入るそうです。先日、今後の広報素材に利用するため、生まれ故郷である「Yes 工房」（入谷地区）を訪ねました。

ここでは、「オクトパス君」グッズはもちろんのこと、FSC 認証木材を使用したレーザークラフトや、入谷地区でかつて盛んに栽培されていたまゆを使ったブローチなど、南三陸町の資源を活用したグッズ開発に取り組んでいました。

震災後、被災して仕事を失った方々の働く場として、また居場所づくりとしても機能している「Yes 工房」は、受験シーズンの到来とともに「オクトパス君」づくりの最盛期を迎えます。



10 万個販売のオクトパス君



オクトパス君絵付け体験



まゆ細工部門